

印西市防犯パトロール隊は

今日も元気に巡回中

印西市では現在市内各所に防犯活動団体があり、それぞれ自主的に活動しています。市では平成19年4月から「印

西市安全で安心なまちづくり推進条例」を施行。その条文の中で市民による防犯パトロール推進をうたっています。

印西市防犯パトロール隊は平成18年6月に発足し、現在丸4年が経過しようとしています。中央駅前センター内にある市民安全センターを拠点とし、千葉ニュータウン中央駅周辺の公園、住宅、学校区を中心にパトロールしています。今回は3月3日に行われたパトロールに同行しました。メンバーは男性2人、女性3人による5人編成。事前に十分な準備体操を行った後、中央駅前センターを午後5時に出発しました。

今日のコースは、内野・原山地区を中心としたパトロールです。パトロール中であることをアピールすることが大切であるため、全員が緑色の

ジャンパーもしくはチョッキを着用し、帽子を被り腕章を付け、灯りのつく誘導灯を手にかけています。ニュータウン大橋を渡り、北総花の丘公園を過ぎ内野の住宅街に入り、内野小学校の横を通り内野公園を抜けると原山地区です。行き交う人の多くが「ご

苦勞さまで」と挨拶してきます。不審者がいないか、不審車両がないかチェックしながらのパトロールです。原山中学校の後ろの緑道を通り戸建ての住宅地を抜けると、国道464号です。国道沿いに歩き約1時間30分のパトロールでした。途中、女性隊員にパトロール隊員になった動機を伺ったところ「子どもを守るために始めたが、身体にも良いので今後も続けていきたい」と元氣な返事をいただきました。

終了後、防犯パトロール発足時から担当の市民安全センター職員石井さんと宮嶋さんにお話を伺いました。隊員は全員ボランティアで、現在37人。男女の比率はほぼ同じで、平均年齢は60歳台。最高齢の平井さん(内野・81歳)も元氣にパトロールに参加されています。パトロールは土・日曜日、祝日を除く月々金曜日に実施し、原則朝、

夕方、夕の3回各1時間30分程度行われています。隊員のみなさんは地域の安全確保に役立つため参加していますが、歩くことは身体に良いというのも参加目的の一つになっているそうです。「車が多い地区なので、隊員に事故がないこと一番気を遣う」とのことでした。

かつて日本は先進国の中で最も安全な国といわれてきました。しかし、最近身近な道路や公園での犯罪が増え、幼い子どもが狙われるケースも多く、不安が広がっています。このような状況に対処し安全、安心のまちづくりを実現するために防犯パトロールは大きな役割を担っていると思います。最後に、取材にご協力いただいたみなさんにお礼を申し上げます。

ほっとレポート

広報レポーター：村形 彰治(小林北)

出発前にまず十分な準備体操



出発前にまず十分な準備体操



暗くなり灯りのついた誘導灯が目立ちます

苦勞さまで」と挨拶してきます。不審者がいないか、不審車両がないかチェックしながらのパトロールです。原山中学校の後ろの緑道を通り戸建ての住宅地を抜けると、国道464号です。国道沿いに歩き約1時間30分のパトロールでした。途中、女性隊員にパトロール隊員になった動機を伺ったところ「子どもを守るために始めたが、身体にも良いので今後も続けていきたい」と元氣な返事をいただきました。

かつて日本は先進国の中で最も安全な国といわれてきました。しかし、最近身近な道路や公園での犯罪が増え、幼い子どもが狙われるケースも多く、不安が広がっています。このような状況に対処し安全、安心のまちづくりを実現するために防犯パトロールは大きな役割を担っていると思います。最後に、取材にご協力いただいたみなさんにお礼を申し上げます。

かつて日本は先進国の中で最も安全な国といわれてきました。しかし、最近身近な道路や公園での犯罪が増え、幼い子どもが狙われるケースも多く、不安が広がっています。このような状況に対処し安全、安心のまちづくりを実現するために防犯パトロールは大きな役割を担っていると思います。最後に、取材にご協力いただいたみなさんにお礼を申し上げます。

かつて日本は先進国の中で最も安全な国といわれてきました。しかし、最近身近な道路や公園での犯罪が増え、幼い子どもが狙われるケースも多く、不安が広がっています。このような状況に対処し安全、安心のまちづくりを実現するために防犯パトロールは大きな役割を担っていると思います。最後に、取材にご協力いただいたみなさんにお礼を申し上げます。

いんざい写真館



広報レポーター：美馬 光実(戸神台)

この写真は昭和30、40年ごろの地元の消防団による出初式を撮影したもので、染め粉を使って色とりどりの一斉放水が行われていた様子を写した一枚です。地元の元消防団だった藤岡さん、山口さんに当時を振り返っていただきました。

当時、この周辺は映画館が2館もあり、写真の川に沿って染物工場が立ち並び、商店街も大変賑わっていたそうです。今でも残る情緒溢れる古い街並みに、当時の面影を感じることができます。

お二人が消防団員だったころは常設の消防署ができ、火事起きた際消火活動は消防署で、消火後は消防団に火事場が任され一日中再出火を見回ったり、後処理に一週間もかかった事や、川岸の修繕に土を運んで固めたりと、当時の苦勞話を伺うことができました。

後継者不足が問題になっている消防団ですが、藤岡さんは「地域交流という点でも、大きな役割を果たす消防団という伝統を繋いでいきたい」と熱く語っていました。

写真の川は、現在遊覧船に乗って豊かな自然を楽しめることでも知られています。5月の新緑のころは特に美しいそうです。

さて、この写真の場所はどこでしょうか。答えは5月15日号でお知らせします。

《3月15日号の解答》



▲答えは「印西大師」(右写真は最近のもの)。白いお遍路さんの服装は近年になって定着したそうです。

文芸コーナー

短歌

俳句

合掌の屋根に雪積み朱鷺色の淡き夕光しみ入りて見ゆ 小倉台 並河智恵子
 冬枯れの蓬しごけば意外にも強き香のあり日のさす道に 西の原 濱崎 伸枝
 友の計にわが急ぎゆく古里の雪原たちまち闇に紛るる 大森 安孫子正子
 念願の合併成りてわが村の歴史も共に印西市となる 中 吉岡 和子
 地震跡に泣きて父呼ぶ子ら三人父は帰らぬ人なりしか (チリ地震に際して) 山田 斎藤 正憲
 叶ふ絵馬叶はぬ絵馬も梅の下 小林浅間 榎本 聖彦
 義仲の産湯の井戸や夕ざくら 内野 葛西 節子
 もの芽の期待ふくらむ雨一日 原山 片岡 芳子
 もの芽に輝き添ふる夕日かな 大森 吉田 弘子
 うかうかと齡を重ね春惜しむ 木刈 蘭田 篤生

リサイクル情報広場

掲載情報は3月26日現在
 圃クリーン推進課クリーン推進班(☎内線333)

◆ゆずりませ情報(有料の物は希望価格)

▲木製二つ折りタイプすのこベッド(7千円)▲ベビーバス▲千葉商科大学付属高校女子制服(夏・冬服、コート、要相談)▲リクライニングソファ(足のせ付き、要相談)▲犬のハウス▲一輪車(1千円)▲滝野小学校体操服(1千円)▲ローラー付きシューズ(21cm~23cm、3百円)▲子ども用男子スーツ上下(2千円)▲子ども用スキーウエア上下と手袋(2千円)。

◆さがしています情報

▲全自動麻雀卓▲印旛高校女子制服▲ノートパソコン▲麻雀卓▲印西しおん幼稚園男子制服(115cm)▲幼児用自転車▲千葉英和高校男子制服、体操服一式(180cm)▲きかり幼稚園制服、体操服など▲木刈中学校男子制服(160cm)▲犬用乳母車(大型犬25kgが入る大きさ)▲秀明八千代高校男子制服・体操服・コート・セーター・バックなど(要相談)。

※詳しくは市ホームページをご覧ください

〈短歌・俳句をお寄せください〉

一人一首または一句で未発表のもの。毎月20日締め切り(必着)です。投稿は、住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、秘書広報課広報広聴班まで。

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。お買い物にはマイバックを持参しましょう。